

## プロジェクト進捗報告(月次)

プロジェクト名:「女子にやさしい教育環境のための地方政府による学校の月経衛生管理(MHM)導入支援」



GBN による MHM 研修が、2026 年 2 月 23 日から 26 日にかけて実施された。

報告期間: 2026 年 2 月 1 日～28 日

作成者: Global Bridge Network(グローバルブリッジネットワーク)

## 第 I 部: 概要

本プロジェクト「地方自治体の下で学校における生理衛生管理(MHM)を導入し、女子にやさしい教育環境を整備する支援」は、2025年11月1日に正式に開始された。対象地域はワキシ地区ナンサナ市で、ナンサナ、ナブウェル、ブスクマ、ゴンベの4行政区(Nansana, Nabweru, Busukuma, Gombe)を含み、ベースライン調査対象校は30校である。現在までに、地方政府職員の評価および学校の調査はすべて完了している。保護者を対象としたグループインタビューは、3月第2週に実施される予定である。

## 第 II 部: 今月の主な活動と成果

活動コード	実施内容と今後の方針
ベースライン調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 2025年11月より調査を開始し、まだ調査中。地方自治政府の職員の調査及びデータ入力は完了。</li> <li>- 学校調査も完了した。</li> <li>- 保護者(父母、地域住民など)へのインタビューは、2026年3月の第2週に実施予定。</li> </ul> <p>その他の実施活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2026年2月23日~26日にかけて、教育・スポーツ省(MoES)管轄にあるジェンダーユニットが主催する月経衛生管理(MHM)研修に参加した。今後実施予定のナンサナ市の政府職員向けの研修やその他の活動を実施するため、チームの技術的能力が強化された。</li> <li>- MoESのジェンダーユニットは、GBNが実施するベースライン調査の結果に関心を示し、調査レポートの共有を依頼された。これらの結果は、省レベルでのMHM支援の改善に向けた議論を促進するとともに、本プロジェクトと国家レベルの取り組みとの連携強化に寄与することが期待されている。</li> <li>- 政府職員向けMHM研修の準備は現在進行中で、2026年3月5日に実施予定。</li> </ul>
活動1. 学校MHM導入のためのツールと研修プログラム開発	<p>1-1) MHMに関する情報共有、ネットワーキング、研修、およびHappy Padsの販売を行う拠点(Happy MHMセンター)の設立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Happy MHM オペレーションセンターの設置場所としてH&amp;Fメディカルセンターが正式に選定され、MHM研修、ネットワーキング、および布ナプキン作成活動の拠点となる。</li> <li>- 2026年2月1日付でMoU(覚書)が締結された</li> </ul> <p>1-2) 「学校MHMマニュアル」「布ナプキン作成マニュアル」、「MHMブックレット」等のツールの開発</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>- GBN の教材は開発されていて、すぐに現場で活用できる状態となっている。</li> <li>- MoES から、GBN が開発した教材を学校で使用するには NCDC (国家カリキュラム開発センター) による正式な承認手続きを経る必要があると助言があった。GBN は、これらの教材を国家ガイドラインに沿った形の参考資料という位置づけで事業を実施するとともに、NCDC の正式な承認手続きを進めていく予定である。</li> </ul> <p>1-3) 学校 MHM および布ナプキン作成に関する専門家/トレーナーを養成するための研修プログラムの作成(活動 1-2 で開発したツールを活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 政府職員向けの研修プログラムは 2026 年 3 月 5 日に実施される予定である。研修では、日本およびウガンダにおける GBN の活動背景の紹介、MHH/M (Menstrual Health Hygiene/Management) の国際的および国内の現状分析、MHH/M 導入のための GBN モデルの説明、持続可能な実施に向けた関係者の役割の整理、さらにナンサナ市職員による MHH/M 導入に向けた年間アクションワークプランの作成などを行う予定である。</li> </ul>
--	---

### 第 III 部: 課題と対策

課題	対策
- ゴンベ地区とブスクマ地区で学校調査を実施する際、道が悪く、さらに雨季による大雨の影響もあり、一部の地域へのアクセスが困難であった。	- 調査チームは状況に柔軟に対応し、忍耐強く取り組むことで、評価活動を無事に実施できるよう努めた。
- 一部の学校の校長の態度が消極的で、施設への立ち入りが難しかったため、分析にも影響が生じた。	- 協力的でない学校については、サービスへの参加に関心を示した別の学校に対象校を置き換えた。
- アクセスが難しい遠隔地域では通信ネットワークの接続が悪く、ベースライン調査のデータ入力タイムリーに行えないという問題があった。	- データ入力は現地調査の後に行った。

### 第 IV 部: 来月の活動予定とタイムライン

活動	期限
ベースライン調査および評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 保護者へのインタビュー</li> <li>- 報告書作成</li> </ul>	実施中(2026 年 3 月まで)

<p>1) 学校でMHMを実施するためのツールと研修プログラムを開発する</p> <p>1-1) MHMの情報共有、ネットワーク形成、研修、Happy Padsの販売のための拠点(Happy MHMセンター)を設立する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Happy Padsの製作</li> </ul>	<p>- 2026年3月</p>
<p>1-2) MHM冊子、ナプキン作成マニュアルなどの「学校MHMマニュアル」を開発する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 資料の印刷</li> </ul>	<p>- 2026年3月第3週まで</p>
<p>1-3) 学校MHMおよびナプキン作成の専門家/トレーナーを養成・認定するための研修プログラムを作成する(活動1-2で開発したツールを使用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- ナプキン作成研修プログラムの作成</li> </ul>	<p>- 2026年3月まで</p>
<p>1-4) 学校監査官や保健衛生官、ナンサナ市議会の関係者に対して学校MHM研修およびナプキン作成研修を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 政府職員向け研修の実施</li> <li>- 活動1~3から得られた学びを研修プログラムに反映</li> <li>- ナプキン作成研修の実施</li> </ul>	<p>- 2026年3月第1週</p> <p>- 2026年3月第3週</p> <p>- 2026年4月</p>
<p>2-1) 学校MHMシステムを導入する対象校(30校)を選定し、ワークプランを作成する 教員研修やナプキン作成の取り組みを含み、Nansana、Nabweru、Busukuma、Gombeの4地区の学校監査官・保健衛生官と連携して実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 教師向け研修プログラムの作成</li> </ul>	<p>-2026年3月末まで</p>
<p>2-2) 対象校(30校)を対象としたキックオフミーティングを各地区で実施。 学校手引きに基づいたMHMシステムを導入し、持続可能性を重視したMHMのアプローチ方法を説明する。ナンサナ、ナブウェル、ブスクマ、ゴンベの4地区の学校監査官・保健衛生官と連携して行う。</p>	<p>-2026年4月第1週</p>
<p>2-3) ナンサナの職員とともに、すべての対象地区の対象校で、教員研修およびナプキン作成研修を実施する。</p>	<p>-2026年4月</p>

第V部: 活動写真



GBNが活動を実施した前期のプロジェクトの対象校の一つであるサンダ小学校での集合写真。



サンダ小学校で行われた再利用可能な生理用ナプキン作成活動を確認するGBNスタッフ。



サンダ小学校の生徒が作った再利用可能な生理用ナプキンのサンプル



GBNスタッフがサンダ小学校の井戸を確認する様子



サンダ小学校の更衣室、洗浄室の設備



最後のプロジェクトでGBNがサンダ小学校に寄付したミシン



MoESによるMHM研修



ジェンダーユニットによるナプキン作成研修



ジェンダーユニットのスタッフが再利用可能な布ナプキンの作り方について指導を受けている様子



研修の参加者が布ナプキンを作成している様子